

認知症高齢者が暮らしやすい街づくり(千葉県松戸市)

○市役所・医師会・ボランティアがそれぞれ取組を実施することで、認知症高齢者に対して多面的支援を実施

松戸市役所

- ・認知症の総合対策を推進するため、松戸市医師会や「認知症家族の家の会」と連携し、**松戸市認知症研究会**を設置
- ・松戸市医師会が養成した認知症協力医を介護現場への紹介等による橋渡し
- ・**松戸市あんしん一声運動**を提唱し、認知症サポーター養成のための講師派遣やオレンジ声かけ隊の登録を実施

連携

連携

松戸市医師会

- ・認知症研修会を開催することにより、**認知症協力医**を養成し、認知症高齢者がまず第1に相談できる医療機関を整備
- ・①認知症協力医・認知症窓口医、②より専門的な病院、③緊急性のある認知症高齢者を入院可能な病院の3層の連携体制を整備

オレンジ声かけ隊

- ・松戸市あんしん一声運動に協力する認知症サポーターが、**オレンジ声かけ隊**として松戸市に登録
- ・普段の生活の中で手助けが必要な高齢者を見かけたときに、「何かお困りですか?」「お手伝いしましょうか?」と声をかけ、高齢者を地域全体で見守り

認知症協力医の役割

- ①認知症の評価や治療で一定の役割を果たす。
- ②認知症患者さんの日常的な身体管理や病状管理を行う。
- ③見通しや対処法について説明し、家族に安心してもらうことに一定の役割を果たす。
- ④介護保険に関わる意見書作成を行う。
- ⑤対処困難な事例ではより専門的な医療機関を紹介する。



オレンジ声かけ隊長
ゆーかりくん

地域包括ケアシステム構築に向けた取組事例

①市区町村名	松戸市
②人口（※1）	485,876人（平成25年4月1日現在）
③高齢化率（※1） （65歳以上、75歳以上それぞれについて記載）	65歳以上・・・22.1%（107,298人） 75歳以上（再）・・・9.3%（45,396人）（平成25年4月1日現在）
④取組の概要	「松戸市認知症研究会」を設置して松戸市の認知症総合対策を多方面から推進
⑤取組の特徴	認知症対策について、市医師会、老人介護施設代表、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、認知症の人と家族の会等の関係機関・団体、行政等が連携をして課題に取り組んでいる。
⑥開始年度	平成21年度
⑦取組のこれまでの経緯	平成18年、松戸市認知症対策のための検討委員会・研究部会を設置した。平成19年から「認知症予防対策実施計画」として取り組みを始め、①市民への認知症に関する情報提供と啓発活動②認知症早期発見システムづくり③認知症予防プログラムについて取り組む。平成21年認知症研究会を設置し、医療、行政、介護ほか関係機関、団体と協働して認知症対策の推進をしている。
⑧主な利用者と人数	①認知症研究会：医師3名、老人介護施設代表1名、地域包括支援センター1名、地区在宅介護支援センター1名、認知症と家族の会1名。認知症予防講演会1,075人参加、②医師会：認知症窓口医44名、認知症協力医34名、認知症コーディネーター養成講座約200人受講中、③オレンジ声かけ隊：1,771人、
⑨取組の実施主体及び関連する団体・組織	認知症講演会は松戸市高齢者支援課が主催、市医師会認知症部会医師が会長、老人介護施設施設長が副会長となり、地域包括支援センター代表、地区在宅介護支援センター代表、認知症と家族の会代表がメンバーになっている。それぞれの団体が認知症予防、対策に協力・連携することで、効果大。
⑩市区町村の関与（支援等）（※2）	平成24年予算額：当初340千円（報償費）松戸市の認知症対策の協議の場、市内関連事業の情報共有の場としている。医師会事業に協力している。
⑪国・都道府県の関与（支援等）（※3）	介護保険地域支援事業として実施
⑫取組の課題	1. 地域の認知症予防活動（教室の展開ほか） 2. 医療・介護・福祉の連携活用
⑬今後の取組予定	1、25年度7つの課題の遂行 2、認知症コーディネーターのモデル事業を松戸市医師会で行っているため、認知症コーディネーターの活用について全体で検討予定。 3、特に地域における認知症予防活動（地域包括C活動、教室ほか）展開。 4、オレンジ声かけ隊の活動支援と活用。
⑭その他	
⑮担当部署及び連絡先	松戸市役所 高齢者支援課 047-366-7343

※1 一部地域に限定した実施の場合は、当該地域の人口・高齢化率を（ ）内に記載してください。

※2 市町村から財政的支援が行われている場合には予算額等を含めて記載ください。

※3 国や都道府県から財政的支援を受けている場合は、補助金や交付金等の名称、額等を含めて記載ください。